
中外雑記

真言

延べ二百七十人が活動

●**高野山** 大阪市北区の太融寺に本部がある兵庫県南部地震の災害救援本部によると、これまでのボランティアの数は延べ約二百七十人になっているという。地震から約一ヵ月が過ぎ、「一般のボランティアにはない、僧分にしかできない活動をしなければならないのでは」など現場からはボランティアについての様々な問題点を指摘する声が上がっているようで、同本部でも今後の宗団としてのボランティアのあり方を模索している
▽十九日には南山会が淡路島の北淡町で牛井二百人分、二十三日には高野山三宝院が中心になり御影公園でおでん一千人分をそれぞれ接待する。

檀家衆へのお心くばりを

▽兵庫県南部地震（阪神大震災）の被災地の寺院五百カ寺に対して、見舞いと激励の手紙を一住職が贈っている。鹿児島市平川町、最福寺の池口恵観住職。同住職によると鹿児島は桜島の火山灰に見舞われ、灰を取り除く費用だけでも年間何億円という予算が費やされ、失われている。それに二年続いた集中豪雨による崖崩れ、河川の氾濫で住宅や商業地が水浸しとなって多くの尊い人命が失われている。このような再三の災害は、まことに予期ができず、経済的にも精神的にも痛手を被るものであるという。このたびは同じように突然の災禍にあった阪神の寺院宛に、次のようなお見舞いと激励文を届けている
▽「このたびの阪神大震災にいたしましても、日を追って被害が増大し、被災死者が五千人を超えるという史上最悪、最大級の震災になりました。道路や鉄道の復旧こそ除々にすすんでいるようでありますが、個人の住宅や職場といった日常を支える経済的基盤の見通しが暗いというありさまに、心を痛めております。貴山の被害はいかななものかと心配をしておりますが、同時に被災されました檀家の皆さまおかれましても、心を砕いている次第で、呉々も檀家衆へのお心くばりをされまして、お大師さまの法灯をお守り頂き、ご誓願を心とされ、衆生の救いとなられんことをお祈り致しております。すでに災害から日もたっておりますが、どうか、この苦難のときにお風邪など召されませぬようご自愛とご健闘を祈っております。敬具」。

川崎大師で地震救援募金

●**智山派** 大本山川崎大師平間寺（高橋隆天貫首）では、兵庫県南部地震救援の募金を一月二十一日、二十二日に行ない、集まった六百四十八万一千二百五十一円は、義援金として神奈川新聞社川崎総局を通じて被災地に送られた。また、川崎大師平間寺から二百万円、川崎大師二十日会・平間寺法類会・川崎大師羯磨会から百万円、川崎大師勤務者一同から四十六万八千九百九十円があわせて寄託された。

両部長ら被災地を訪れる

●**東寺真言宗** 兵庫県南部地震への見舞いは、引き続いて行なわれている。十三日、本山東寺から森泰長総務部長、砂原秀輝事業部長（洛南会館専務）と職員が、救援物資と宗派の被災寺院から要望のあった荷物を運ぶ台車、ポリバケツ、食料、衣服、法衣などを車に満載して神戸市に入った。この日は、車両班と電車とバスを使う班との二手に分かれて被災地を訪れたもので、森、砂原の両部長は電車とバスを乗り継いで長田区へ。砂原部長は、「電車が西宮に入ると被害があまりにもひどいのには驚き、テレビで見る被災状況と実際に被災地に付むのとは大違いだった。電車は満員で、代替バスへの乗車には三列に並んで長い行列が続いた。長田まで約五時間をかけて到着。無惨な町の様子に、ここで教化活動をされていた寺院のことや、焼け出された寺族や被災の市民の姿に涙が出た。地震という自然の災害の前に人間が築いた建築物はかくも弱いものかを知らされた」

▽一行は長田区で車両班と合流。最後に塔頭が倒壊した大本山須磨寺を見舞った

▽一月十七日の地震発生後、東寺直営の洛南会館は、西日本、九州方面の団体からキャンセルが続いていたが、この頃は関東方面から修学旅行生の宿泊が続いて賑わっている。砂原専務も「こんな時ですから、会館の職員もみんなが力を合わせて頑張り抜き、やがて花が咲くころ、阪神地帯の復興と共に会館も強く逞しく成長していきます。弘法大師の教えは、如実知自心（実の如く自心を知る）で、人のせいにしたり、社会や組織のせいにせず、あくまでこの私自身を厳しく問いただし、反省するところから、幸せの扉が開かれていくものと信じます」と、東寺で育ったスピリットで勇んでいる。

管長・総長が被災地見舞

●**御室派** 吉田裕信管長と倉信隆源宗務総長は十八日、兵庫県南部地震の被災地を見舞った。朝七時に車で本山を出発し、現地の大きな被害寺院を訪れた

▽宗務所の調べにより判明した被害状況は次の通り（十八日現在）。宗会議員・粟生英憲氏の自坊、神戸市長田区の法隆寺で庫裡・本堂・山門が全壊したのをはじめ、同じく長田区の大日寺（小田証純住職）、大聖寺（田中妙鶴住職）、朝光寺（山西克明住職）でも伽藍が倒壊。朝光寺は本堂も庫裡も使用不能の状態に。大聖寺は庫裡が使用不能に
▽兵庫区では下沢通の東山寺（藤井昭禅住職）で、庫裡が使用不能の状態。同寺付近一帯は被害がひどく檀信徒に相当の被害も。北区は海岸寄りに比べ比較的、被害が軽いとみられていたが、それでも極楽寺（神内邦明住職）では庫裡が使用不能に。また太福寺（佐久間智観住職）では墓石が倒壊。宝城寺（東垣妙香住職）では石佛が倒壊、大師堂の外壁が剥落した

▽兵庫県三田市の金心寺（青山昌憲住職）では屋根瓦が半分落ち、山門も傾斜した

▽同西宮市の神呪寺（幸田光玄住職）は、不動堂と展望台が全壊の他、本堂が傾斜しており、庫裡・客殿は使用不能の状態に。住職の娘さん夫婦の庫裡には被害はなかった

▽神戸市西区では、宝珠寺（平井祥雲住職）で本堂の屋根瓦が半壊、山門と外塀は倒壊、庫裡には壁に亀裂が。長福寺（土口泰行住職）は、塀の瓦が少々壊れた

▽同伊丹市では、金剛院（片瀬光雅住職）が本堂に亀裂が走り、壁は剥落。また外塀は倒壊、愛染堂が傾斜した。安楽院（中島隆應住職）は客殿の屋根瓦が半分壊れ、外塀は倒壊、墓石も倒壊した。大空寺（稲田隆玄住職）では本堂が傾斜して倒壊寸前に。観音堂も傾斜、鐘楼は全壊した

▽同川西市の常福寺（井川忠玄住職）では、墓石が倒壊。同尼崎市の法園寺（松浦裕幸住職）では、庫裡が使用不能。明石市の宝林寺（笹井義秀住職）では、本堂の瓦の大部分が壊れ、石塔が倒壊した

▽大阪支所下でも、大阪府豊能郡豊能町の高代寺（山内一秀住職）で、本堂の壁に亀裂が入り、墓石が倒壊、聖天堂の壁にも亀裂が生じた

天台

震災の四十九日忌法要を

●**天台宗** ▽三月七日は兵庫県南部地震被災者の四十九日に当たるため、この日の前後に教界各方面で回向法要が執り行なわれるが、延暦寺も阿弥陀堂で三月七日に四十九日法要を執り行なう

▽二十三日、延暦寺で一山会議（森川宏映議長）が、開かれる。兵庫県南部地震に対応して、特別会計予算約五千万円の計上が予定されている。小林隆彰延暦寺執行は、「本年度の予算執行は、厳しいものになるでしょう。恒例の三月十三日の比叡山大護摩供を初め、震災の影響で全てにおいて落ち込みが予想されます。既に執行中である叡山学院の寮の新築、また、年末に加入した災害補償の厚生制度の掛け金である一千万円も厳しいですね」と語っていた

▽三千院門跡（小堀光詮門主、京都市左京区大原来迎院町五四〇）で、十一日に同門跡では初めての「大根炊き」が行なわれ、来山の信者に熱々の大根がふるまわれた＝写真。このところ震災の影響で人出も少なくなっていた同門跡も、建国記念の日と日曜日の連休となり、少し賑わいを取りもどしたようだ。準備されていた三百食が、午前中に無くなったという。京都市内で見られるような、一碗にいくらかの奉納金なども強制されないだけに、参拝者の中には、傍らに置かれた震災義援金の箱に、「ご馳走さまでした」と募金する人も多かったようだ。募金箱はこの後も常備設置され、まとまった時点で、義援金として送られることになっている

臨黄

震災の廃虚で行道

●**妙心寺派** ▽震災一カ月目に当たる十七日、地震並びにその後の火災被害が大きかった神戸市長田区内で兵庫教区住職と羽賀文圭総務部長をはじめとする本山役職員による犠牲者供養諷経が厳修された。この日は月忌として神戸市内各地で追悼行事が実施されており、長田区仏教会もＪＲ兵庫駅辺りから鷹取方向へ地元の寺院を回って追悼の読経を執り行なっていた。妙心寺の巡回供養は雲水姿の羽賀部長を引手として、ちょうど反対の行程を辿り底冷えのする被災地を歩いて諷経。最後に、ＴＶ、新聞の報道ですっかり有名になった完全に廃虚と化した菅原通の商店街跡で行道を厳修したが、取材のＴＶカメラの蔭でじっと手を合わす通行人の姿が印象的だった（詳細は続報）。

曹洞

ボランティア保険を負担

●伊東盛熙宗務総長、服部栄隆教学部長、佐々木孝一総務部長の三人は十五・十六日に震災見舞いで神戸、大阪を回った。現地対策本部と近畿管区教化センターの職員らが同道した。今回の阪神入りで宗務庁から現場での活動資金として兵庫県第一宗務所に二百万円、大阪府宗務所に五十万円を渡した。また震災で子供二人を亡くした神戸市東灘区の向栄寺（岡本寛明住職）では本堂で回向し、岡本住職は「もう一度やり直す決心がついた」と感激の面もちだったという。向栄寺では宗務庁が提供したプレハブを利用して遺骨の安置室としており、檀信徒にも安心してもらえると喜んでいる。兵庫区の八王寺（志保見道元住職）ではボランティアとして活躍している青年会のメンバーを伊東宗務総長が激励し、金一封を手渡した。全国曹洞宗青年会に対しては先に宗務庁から援助資金として五百万円を渡している。さらにボランティアとして活動している青年会や婦人会のメンバーに対するボランティア保険を宗務庁が負担することを決めた

▽曹洞宗国際ボランティア会（＝ＳＶＡ、松永然道会長）は兵庫県南部地震の救援活動として、兵庫区・長田区・須磨区内の避難所約三十カ所で救援物資の配給、衛生管理、行政や被災者自治組織などとの調整、介護老人への入浴サービス、神戸市在住のベトナム難民への救援、補助給食活動などキメの細かい行動を展開している。現地ではＳＶＡ派遣ボランティアと共に曹洞宗青年会や永平寺・総持寺の両大本山から派遣された雲衲のボランティア、兵庫県第一宗務所の婦人会らが一致協力して活動しており、現地対策本部へのボランティア参加者数は百十二人にの

ぼっている。

真宗

賦課金三百円増額へ

●**本願寺派** 「一月十七日の大変恐ろしい状況をテレビで見て、そして、最近、本願寺派寺院の大被害の詳細について知りましたが、寺院や僧侶、門信徒の皆様の大変な被害を知りまして、今、私は、本当に深いこの悲しみをどう表して良いのか...とにかくペンを執りました」－昨年、来日して本願寺で得度したオーストラリアのジョージ・ガッテンビー氏（五一）は、今回の兵庫県南部地震の悲惨な状況をメルボルン市でテレビ等で知り、このような見舞状を国際部宛に送ってきた。同部の永谷孝昭部長によれば、海外開教区や欧州など海外の同朋から寄せられたこうした手紙やFAXは四十通を超えているという。この中で、アフリカのケニアで真宗の伝道に取り組んでいるオサカ・エリザファン氏は、唯一の情報メディアであるラジオでこの震災の模様を知り「私達メンバーも深い悲しみに沈んでいます。被災された方々が一日も早く立ち直られて皆さんと一緒に念仏讃歌が歌える日が来ることを願っています」と書き記し、一日も早い復興を願っている。ケニアに真宗の伝道が始まったのはつい最近のことで、オサカ氏は妻のケムントさんと共に故郷オペンダ村で村民らに念仏の教えを広めており、南米開教区アルゼンチンのブエノスアイレス本願寺と並んで日本から最も離れた地で開教に努める同朋。オサカ氏からの手紙は二月初めに同部に届いており、永谷部長は「おそらく地震のことを知ってすぐに手紙を書かれたのでしょう。このオサカ氏やガッテンビー氏をはじめ海外の方々は本当に今回のことを心配されています」と言い、二月末か三月中旬までには北米、ハワイ、カナダ、南米の海外四開教区からの義援金も到着することになっている。

▽現行では一点当たり三千四百円となっている賦課金の基準が、来年度からは三百円増額され一点三千七百円となる見通しである。二十一日からの第二百四十二回定期宗会（北條成之議長）を前に、十六日、本山宗務所で財政審議会（伊井智昭会長）が開催され、総局からこの賦課金の改定案が示された。賦課基準規定では、賦課金は二年ごとに見直すことになっており今年度は見直しの年に当たる。当初は二百円の増額の線で検討されていたが、一月十七日に兵庫県南部地震が発生して兵庫、大阪の両教区で多数の寺院が被災。先の第二百四十一回臨時宗会で設置をみた阪神大震災対策委員会（委員長＝笹沼観総務）では、被災寺院の賦課金の減免措置を検討しており、当初の計画の二百円の増額では賦課金収入にかなりの減収が生じることになるため、これを三百円の増額に改めることになったようだ。

一千万円を被災地に

●**高田派** 安藤光淵宗務総長はこのほど、兵庫県南部地震の被災者救援の義援金一千万円を中日新聞社会事業団に寄託した。この義援金は全国の二百九十二カ寺から寄せられたもので、宗務院では現在も各寺院に協力を呼びかけている。このほか、坊守会と婦人会では毛布や布団など救援物資を被災地に送った

神社界

大祭例年通りに

●兵庫県西宮市の廣田神社（中山隆宮司）では三月十六日、春の大祭を例年通り執り行なう。祭舎の解体作業が終了、倒壊した手水舎、斎舎、儀式殿などの片付けも終了した。また、西宮神社の境内にある境外摂社の南宮神社も片付け作業が完了。現在は倒壊を免れた本殿、拝殿、社務所の修理に力を注いでおり、新しい社殿の建設などは未定。ただ、本殿と拝殿の間にあった祭舎の復旧だけは早く行ないたいとしている。同神社は西宮市にあって節分祭

も無事斎行されるなど、祭典は滞りなく行なわれており、三月の大祭も例年通りの斎行が予定されている。

新宗教

支部会員ら救援に活躍

●**解脱会** 戦後最大の災害となった兵庫県南部地震から一ヵ月。神戸市の避難所などを中心に、教区・支部単位でボランティア会員の活躍が目立っている

▽京都教区の有志三十人は五日、灘区の六甲小学校で千八百人分の豚汁を調理して避難住民に振る舞った。さらに同教区婦人部は十八日から、一日三人のボランティアを灘小学校に派遣している。兵庫教区の婦人部は十九日、東灘区の本山南小学校で千人分の炊き出しをした。和歌山市の御膳松支部は一月二十六日、船便でおにぎり千個を被災地に届け、静岡県三島市の二日町支部も同日、地元ボランティアと協力して豚汁千五百人分、ペットボトルのミネラルウォーター三千本を提供した。また、和歌山市の北島支部で理容業を営む男性会員は、二十日に長田区の中学校で理容のサービスを実施。この会員は震災直後に現地入りし、床屋に行くのもままならない被災者を見てサービスを思いついたという。同業者の有志十人とともに避難所ではさみを揮い、被災後初めて散髪するという多くの人に喜ばれた

▽一方、青年部会員の動きはどうだったか。一月二十二日に開かれた青年本部会では、未曾有の地震災害を受けて、1「一円玉平和基金」から緊急援助する2義援金の募金活動を行なう3犠牲者の冥福と被災地の早期復興を祈念する供養を営む－などの方針を打ち出した。二十四日から二十七日にかけて井上公郎青年本部長や熊田昭事務局長が現地入りし、神戸市内の各支部・会員宅などを巡り、安否を尋ねるとともに必要な救援物資の品目を調査。その結果、煮炊きのためカセットボンベ式のガスコンロが必要とされていることがわかり、東京ブロックの青年部役員や部員にコンロ千三百台など救援物資の手配を要請した。集まった物資はいったん災害対策本部（本部長＝岸田敏一内務局長）の関西道場（京都市）に運び込まれ、中部・関西両ブロックの有志三十人が搬送。これらは、比較的被害が軽微だった神戸中央支部に集積され、被災会員や住民に配られた。また、重さ五〇キロの救援物資を背負い大阪から歩いて神戸の街に入った、岡野茂生関西ブロック副議長や大阪南支部の田中角栄さんはじめ、独自に救援活動を行なう青年会員も数多くいた

▽解脱会本部は一月二十六日、震災の義援金三千万円を日本赤十字社に寄託したが、全国各支部では二月末日まで義援金を募り、それぞれ被災地に届ける。また、本部では被災会員へ総額一億円の見舞金を贈ることを決めた。

諸団体

菩薩行の営みを

●**利生会** ▽同園の機関誌『亀岡園だより』二十一号が刊行された。冒頭に兵庫県南部地震のお見舞いが記されており、細川理事長も、「被災されました皆様に心から御見舞申し上げます。微力ながら私達にもお手伝いが何か出来ないものかと行政判断とご指示を待っております。寒空の中、どうか頑張って下さい、一刻も早い復旧を願っております」と記している。その他各職員の新年の抱負。また、誕生会、運動会、年忘れ園生・職員かくし芸大会など園内での楽しい諸行事が記されている。また、園生の紹介欄などもある。今回は、「唱って”明るい人生を”」と題して、亀岡園最高齢者の九十二歳の足立てる子さんの歌が好きで明るい性格や園内での生活などが紹介されている。和やかな園内の様子が偲ばれる

広島

本山などへ約百六十九万円

●**本願寺派** 広島市西区観音本町、西念寺の藤内遊修住職が理事長を務める三つの「ほうりん幼稚園」は別掲の通り、五日と十二日に「ほうりん東野幼稚園」(宮武紗和子園長)が、十一日に「ほうりん安幼稚園」(宮武一瑩園長)と「ほうりん沼田幼稚園」(同園長)が、それぞれ広島市安佐南区の区民センターで生活発表会を行なったが、会場で呼びかけた兵庫県南部地震の義援金百六十九万四千九百四十四円が集まり、本山と全国幼稚園連合会へ寄託する。同園の三回の生活発表会には合計約三千五百人の父母や祖父母らが訪れ、会場で義援金を呼びかけた。また、合計八百人の同園園児も小遣いなどを出し合って募金に協力した。集まった義援金は理事長の藤内住職と宮武園長、父母の会会長らが二十日、中区寺町の本願寺広島別院(高橋広爾輪番)を訪ね百万円を寄託した。また、残金の六十九万四千九百三十三円は、倒壊した幼稚園の復興にと、広島幼稚園連盟を通じて全日本幼稚園連合会へ寄託することになっている。

岡山

義援金百六万円余を贈る

●**本願寺派** 岡山県浄土真宗本願寺派寺院連合会(森嵩正会長、事務局＝英田郡作東町江見六三四、報恩寺内)は、三月七日午後一時半から、倉敷市有城一二六五の山陽ハイツで、第四回「浄土真宗聞法の集い」を開く。講師は、兵庫教区西光寺住職の多田満之本願寺布教使。演題は「今を生きる」。会場で、兵庫県南部地震被災者のための募金を行なう

▽同寺院連合会は、一月二十七日、和気郡日生町のサンバースで仏教婦人研修会を開き、約百人が参加。岸上弘宣西善寺副住職が「開教と浄土真宗」と題して、また長島愛生園の伊奈教勝氏が「いのち尊し」と題して講演した。この時も義援金を募り、六万円余が集まった。同寺院連合会は、この度の地震に際し、会として義援金百万円を贈ることを決議。これまでに合わせて百六万円余を本山の対策本部へ送金している。
